川崎市議会議員
本間 賢次郎 ケンジロウ
市政レポート No. 63（令和５年３月号）

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

３月を迎えて



新年度予算案を審議する今年の第１回定例会（予算議会）が２月 13 日に開会しました。同 27 日には自民党代表質問が行われ、論戦の火蓋が切って落とされ、わが会派からは、市長の施政方針や令和５年度予算をはじめ諸議案など 47 項目 216 問の質問を行いました。

今月は予算を重点的に審査する予算審査特別委員会が６日～9 日の日程で行われ、17 日に会期末を迎えます。任期最後の議会、最後まで力を尽くします。

港湾振興！
～より親しまれる、川崎の海、川崎の港へ～

私のライフワークの一つに港湾振興の取り組みがあり、これまでも当レポートを通じて報告して参りました。地元・川崎区は、市内で唯一、海・港を擁し、特に港は首都圏屈指の物流拠点ともなり、私たちの生活には欠かせない存在となっています。

川崎の臨海部は立地企業も多く、本市内経済を牽引するとともに、新エネルギーの創出や新産業の創出など活気が増しています。しかしながら、工業地帯のイメージは根強く残っているのも事実であり、川崎の海が豊かな海、釣り愛好家らに親しまれる海となっていることはまだまだ認知度が低いままです。そこで、今回は改めて川崎の海の魅力について、伝えて参ります。

まず、東扇島西公園には朝晩、日中問わず、多くの釣り愛好家らで賑わっています。評判では、川崎の海は養分が豊富なため、魚たちが育ちやすいとのことです。さらには、芝生も整備され、港湾緑地での過ごし方にコロナ禍をきっかけに注目が集まるようになり、来場者数が増えてきています。こうした賑わいを見せる同公園のさらなる魅力向上に向け、本間 ケンジロウは、事業者による公園の一部の運営の導入を提案し、BBQ などを楽しめる実証実験が行われるようにもなりました。

そして、東扇島東公園には唯一、海に触れられる人工海浜があり、シーズンには潮干狩りや浜辺遊びを楽しむ子どもたちの姿が目立ちます。10月の「川崎みなと祭り」では、ビーチバレーボールやビーサン飛ばし大会なども行われ、まさに、「川崎の海」を肌で感じられるスポットとなっています。そこに、本間 ケンジロウがイチ押しとして、PR を続けてきた「初日の出」のスポット化は、年々、来場者数が増え、約 10 年前までは初日の出を仰ごうと訪れる人はまばらでしたが、今では、他県からの来訪者も増え、初日の出を一目でも見ようと東公園の駐車場には早朝から列をなしています。私も初日の出を東公園で見るようになった頃は、穴場スポットと言われていましたが、今では決して穴場スポットなどと言わせない賑わいを元旦早々から見せています。 今後も経済の要である川崎の港の魅力をより引き出して、働く人々だけのみならず、多くの人々に川崎の海の豊かさや楽しみ方、景色などを共感して頂けるよう港湾振興に取り組んで参ります。



↑今年の初日の出の様子
東扇島(川崎港)東公園にて